



広島中央トピックス



▲体験発表をする増本さん

また、広島大学大学院人間社会科学研究科の黒坂志穂准教授が「骨から始める健康若返り術」OSTEOで骨密度アップと若返り」と題して講演しました。

また、広島大学大学院人間社会科学研究科の黒坂志穂准教授が「骨から始める健康若返り術」OSTEOで骨密度アップと若返り」と題して講演しました。

また、広島大学大学院人間社会科学研究科の黒坂志穂准教授が「骨から始める健康若返り術」OSTEOで骨密度アップと若返り」と題して講演しました。

日頃の活動を披露し第6回女性部大会・家の光大会



▲西条ブロックのスコップ三味線



▲福富ブロックの銭太鼓ふくとみ



▲高屋ブロックの琴伝流大正琴入野わかば会



▲向陽ブロックの日本舞踊



米作り生産現場を見学 三原市立大和小学校

三原市立大和小学校5年生27人は、米作りの学習と販売に取り組んでいます。9月4日には生産現場を見学しました。米を22haで栽培する合同会社のうしんでは、先進技術を使った農業を学びました。JA大和カントリーエレベーターでは米の検査や共同乾燥施設を見学しました。JA全農ひろしまとJA大和アグリセンターの担当者による出前授業では、担い手不足や高齢化などの農業の課題や現状、米の販売について学びました。



▲トラクターの説明をする平野さん(右)

農家の支援を目的に、米のパッケージラベルを作成し、来年1月にJA産直市で販売する計画です。



感謝祭にぎわう 志和支店・アグリセンター

JA志和支店と志和アグリセンターは9月6、7日の両日、志和アグリセンターで感謝祭を開きました。JA共済連広島の「地域・農業活性化取組支援助成」を活用。2日間で合計約1400人が来場しました。

志和堀保育所や東志和保育園の園児、銭太鼓、生城太鼓、ダンスチーム、西条農業高校吹奏楽部など地元グループがステージで披露した他、曙神楽団が神楽ばやしを鳴り響かせました。

野菜振興協議会が旬の野菜を



▲ミニ産直市で果物を販売するふれあい委員

販売。女性部によるうどんや炊き込みご飯、寿司が好評でした。支店ふれあい委員会は、餅つきや、志和産の米の食比べ、ミニ産直市で会場を盛り上げました。



水 稲

農業機械の整備と土づくり

◆農業機械の整備・点検

11月に入って気温が低くなり、秋から冬へ本格的な寒さを迎えます。米作りにおいてこれからの時期は、比較的作業の少ない時期に入ります。今年は、天候の影響で平年より早く収穫作業を終えた方もおられると思いますが、この時期を利用して普段使用している農業機械の清掃・点検・整備を行ないましょう。

秋に使用したコンバインや乾燥機などは、ホコリや残粒が多く、翌年の異品種混入の原因やネズミ被害を受ける恐れがあるため、きれいにしておきましょう。また、乾燥機は火気を使用しますので火災の

原因となるホコリは厳禁です。特に念入りに行ないましょう。

農機具は使用時期が限られるものが多く、使う間際になって機械の故障に気付く事が少なくありません。冬の間に点検をしておきましょう。入念な点検・整備は機械の寿命を長くし、安全な農作業の確保にもつながります。

また、普段使用することが多い草刈機などの整備・点検も行ないましょう。

◆農作業中の事故を減らすには

近年、農作業中の事故の発生が増えています。小さな事故から大きな事故(死亡事故など)までさまざまです。特にこの時期は、圃場のすき込みなどでトラクターを使用することが多くなります。トラクターは農作業中の事故でも毎年上位にあげられ、危険が多く潜んでいます。

他にも、作業中は携帯電話を常に持ち歩く習慣をつけましょう。農作業は一人で行なうことも多く、常に周りに人がいる状況ばかりで

はありません。「自宅から近いから大丈夫」という考えは非常に危険です。非常事態にすぐ助けを呼べる環境は自分で備えておきましょう。また、できるだけ家の人に「○で作業をしている」と伝えておくとうい良いでしょう。

そして冬場は日も短く、暗くなる時間も早いです。暗い時間帯の作業は視界が悪く、事故のリスクも高くなります。くれぐれも無理をせず、焦らず、余裕をもってケガの無いよう作業をしてください。

◆土づくり

11月になると例年気温が下がってきます。それに伴い、土壌微生物の動きも低下しますので、稲わらのすき込む時期はできるだけ早い方が良いでしょう。稲わらの分解には温度が関係します。稲わらを分解する土壌微生物は15℃以上の温度で活発に活動します。温度が低い時に稲わらを深くすき込むと腐りにくくなりますので、浅くすき込みましょう。

田は冬の間、乾かすことで土壌

バランスを保つことができます。排水の悪い圃場では、排水溝を掘りましょう。

また、事前に土壌改良資材や稲わら腐熟促進剤などを散布して土壌環境の改善を行ない、来年の栽培に備えましょう。

詳しくは、お近くのアグリセンター・営農指導員にご相談ください。



野菜

タマネギ栽培

◆タマネギの特徴

タマネギは、生では辛味と独自の香りがありますが、加熱すると甘い味に変化します。また、カルシウムやリン、鉄などのミネラルやビタミンB1、B2も含んでいて、大変栄養価の高い野菜です。煮物、炒め物、揚げ物などの各種料理やサラダにも適していて、利用範囲が大変広く一年中食卓に欠かせない野菜の一つです。

◆品種選定

秋まき栽培では、早生栽培（春タマネギ）の場合、貯蔵性は良くありませんが肥大の良いマッハなどの早生種を用い、普通栽培では中生種、貯蔵用栽培では貯蔵性の高い晩生種を用います。

なお、大玉になると貯蔵性が悪くなるので注意が必要です。辛さでみると刺激成分の多い東ヨー

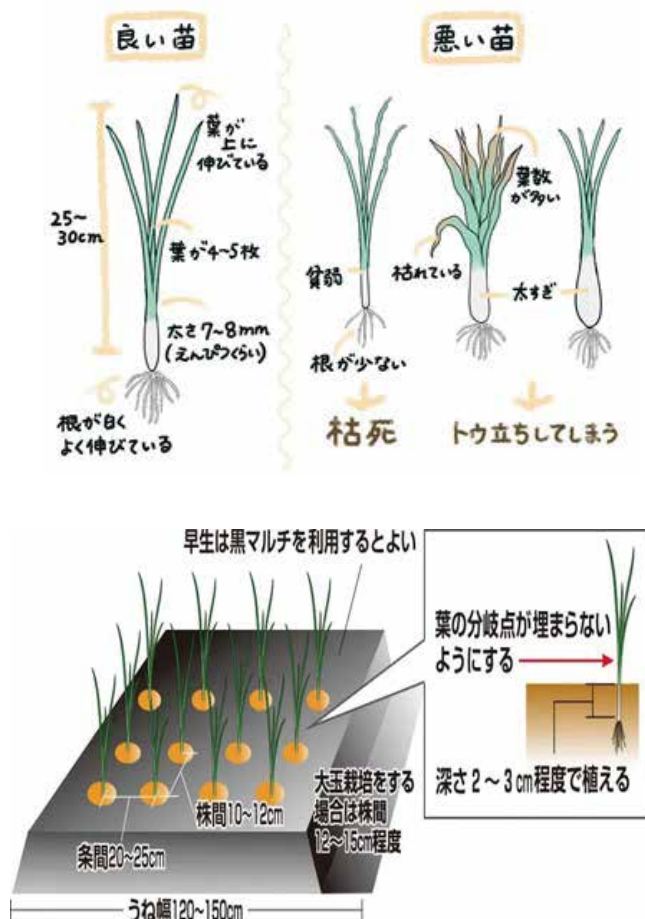
ロッパ系の辛タマネギと刺激成分が少ない南ヨーロッパ系の甘タマネギがあります。さらに表皮の色には、黄色系・赤色系・白色系があります。日本ではほとんどが辛タマネギで、表皮の色は主に黄色系ですが、赤タマネギは甘みがあって生食に適します。

◆栽培のポイント

良品質のタマネギ生産には良い苗選びが重要です。

苗を栽培されている場合はできるだけイラストのように、葉が4〜5枚程度あり、太さが7〜8mm程度のものを選ぶようにしましょう。定植後には十分にかん水するとともに、保温や保湿・凍霜害から苗を保護するため、もみ殻や稲わらを株元に施すと良いでしょう。

また、定植後に「ネキリムシ類」による食害の予防に「ガードベイトA」などを株元へ散布するなどの対策を施します。寒さへの活性を高めるため定植1ヵ月後を目安に「やさしい有機129」などの追肥用肥料（約50g/㎡）を施しましょう。





給食向けキャベツで安定生産目指す
〔豊栄町〕横田 浩さん

豊栄町の横田浩さん(48)は、広島市学校給食への出荷をメインに園芸作物の生産に取り組んでいます。最盛期を迎えるキャベツは来年1月まで出荷を計画。長期での安定出荷を目指します。

横田さんは大学を卒業後、酪農に従事してきました。勤務先でキャベツの栽培を経験したことで自分でも栽培したいと思い、農地を借り、10年ほど前から兼業でキャベツの栽培を始めました。

2022年からは農業に軸を置き、今年はキャベツ90a、麦1・2ha、白ネギ10a、大型ピーマン5aを栽培しています。

キャベツは5月中旬〜8月中旬に出荷する作型と、9月下旬〜来年1月に出荷する作型で年間3万6000株を栽培。これまでは12月までの出荷でしたが、長期出荷できるよう新品種に挑戦しています。

一人で全ての作業をしています。が、学校給食へはコンテナ出荷のため、選別や箱詰めなどの手間が大幅に省け、コスト低減にもつな



▲給食向けのキャベツを生産する横田さん

がついています。

同市が2024年に「学校給食地場産野菜供給拡大システム」を導入し、半年ごとの献立計画など需給が可視化されました。横田さんはJA豊栄アグリセンターの営農指導員と一緒に需要に応じた作付け計画を立てることでさらに安定した生産、出荷ができるようになりました。

横田さんは「収量や品質を向上することでロスを減らしたい。農地を守り、長く農業を続けることで地域に恩返ししたい」と展望します。



Information お知らせ



「はとむぎ茶茶茶」パッケージをリニューアルしました

JA広島中央地域特産のペットボトル飲料「はとむぎ茶茶茶」。この度、容器を丸形からスリムな角形に変更し、箱もコンパクトになりました。内容量やおいしさ、価格に変わりはありません。大和町特産のハトムギと、賀茂大地産の緑茶をブレンドし、ハトムギの芳醇な香りと緑茶の持つ清涼感でおいしく仕上げた「はとむぎ茶茶茶」ぜひ、ご賞味ください！

500ml
24本入り
2,880円

東広島市
園芸センターより

令和8年度東広島市新規就農者育成研修生を募集しています

専業で新規就農する人を育成するため、野菜・花き栽培の技術や経営について研修を行います

【研修期間】令和8年4月〜令和10年3月(2年間)

【場所】園芸センターおよび市内農地

【人数】若干名

【締切】令和7年12月5日(金)

【申込】申請用紙(市ホームページからもダウンロード可)を持参または郵送

【対象者】次の全てに該当する人

- ① 令和8年4月1日現在、18歳以上45歳未満の人
- ② 高等学校を卒業または同等の学力を有する人
- ③ 研修開始までに市内に住所を有することができる人
- ④ 研修の全期間参加でき、通所可能な人
- ⑤ 研修終了後に市内で就農し、認定新規就農者(農業所得250万円以上が目標)を目指す意欲のある人
- ⑥ 申請前に園芸センターでの農作業体験を行っている人



申込・問い合わせ

東広島市園芸センター
TEL (082)433-4411

